



▲整形外科部長 山田 邦雄

総合病院で人工関節置換術を受ける安心

最近の人工関節手術数の増加

股関節や膝関節が変形し、強い痛みを悩んでいる患者さんにとって、人工関節置換術は大きな福音をもたらします。人口の高齢化と手術成績の向上により国内での手術数はここ10年で約2倍増加しており、2013年には人工股関節置換術が約5万4千件、人工膝関節置換術が約8万2千件行われました(矢野経済研究所データより)。

当院における調査結果

人工関節置換術を受ける患者さんは、整形外科、麻酔科、リハビリテー

ション科以外にどれくらい他の診療科のお世話になっているのでしょうか。当院の現状を調べました。

対象は昨年从今年にかけて私自身が担当した下肢の人工関節置換術50症例です。平均年齢は69歳であり、性別は男性6例、女性44例でした。疾患は変形性関節症38例、関節リウマチ7例、その他5例であり、手術部位は股関節19例、膝関節31例でした。

50例中47例(94%)に術前合併症を認め、その内訳は循環器疾患27例、糖尿病9例、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器疾患各5例、その他の順でした。

術前に手術の危険性の評価や合併症の治療のために他科受診をした症例は28例(56%)であり、術中術後に他科の専門医に治療や対処を受けた症例は17例(34%)でした。

感染予防における血糖値管理の重要性

人工関節置換術の最も厄介な合併症は感染です。感染率は1〜2%ですが、難治性で2回以上手術を要する場合が珍しくありません。糖尿病は感染の大きな危険因子であり、予防には術前後の厳重な血糖コント

ロールが重要です。当科では糖尿病専門医に血糖値管理をお願いしており、糖尿病の状態が悪い患者さんは術前に内科に入院し治療していただく場合があります。

致命的な合併症である肺血栓症の予防

下肢の人工関節置換術では2分の1から3分の1の症例に下肢の深部静脈血栓症が発生します。その予防的措置として、術後弾性ストッキングの装着、空気マッサージ、抗凝固薬の内服を行っています。稀ですが血栓が肺に飛ぶと致命的になる危険性があり、万一肺血栓症が発生した場合循環器専門医による緊急処置が命を左右します。

総合病院で手術を受ける利点

安定した手術成績を生み出すためには、優れた手術手技や高性能な人工関節の使用だけでなく、術中術後の合併症の予防や対処がとても大切です。小牧市民病院のような総合病院には各科の専門医が常勤しており、そこで手術を受けることの最大の利点はどんな合併症が起こっても専門的な治療を受けられる安心であると言えます。

◆お知らせ

市民病院助産師、看護師募集

勤務

- 平成27年4月1日〜
- 病棟勤務 3交替と2交替
- 外来・手術室勤務 2交替

●対象 次のすべてを満たす方  
●助産師または看護師資格取得者、平成27年3月助産師または看護師資格取得見込者

●昭和40年4月2日以降に生まれた方  
●人員 80人程度

試験

●内容 適性検査、面接

●とき 6月7日(土)午前8時30分〜

●ところ 市民病院8階講堂

●申込・問合先 6月2日(月)(必着)

までに、履歴書(写真貼付)、卒業証明書または卒業見込証明書、資格免許証の写し(資格取得者のみ)を郵送または直接病院総務課(〒4855・8520住所不要) ☎76・4131

※資格取得者は平成26年7月(昭和39年7月2日以降に生まれた方)、平成26年10月(昭和39年10月2日以降に生まれた方)または平成27年1月(昭和40年1月2日以降に生まれた方)の採用も可能です。

※7月5日(土)、8月5日(火)、8月20日(水)、9月以降の毎月5日に同様の試験あり。